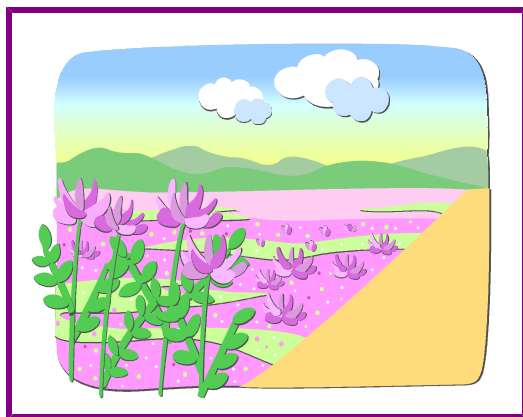


めぐみイエス・キリスト教会

2020年4月12日(日) イースター礼拝
週報「通算第502号」



2020年標題聖句

第 I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(各家庭にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝※中止	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年4月12日 イースター礼拝 午前10時

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌112「カルバリ山の十字架」 p. 158

【交読文】 No.54 ヨハネの福音書14章 p. 922

【賛美Ⅱ】 新聖歌128「イースターの朝には」 p. 180

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.3 「復活の日の朝」

【聖書朗読】 ルカの福音書24章1節～11節(新約p. 154上段左側)

【聖書研究】 《主イエス・キリストの復活》

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 165

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【黙祷後奏】

※本日の聖書箇所 ルカの福音書24章1節～11節

24:1 週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に着いた。

24:2 見ると、石が墓からわきまにころがしてあった。

24:3 はいって見ると、主イエスのからだはなかった。

24:4 そのため女たちが途方にくれていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、女たちの近くにきた。

24:5 恐ろしくなって、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。」

24:6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。

24:7 人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」

24:8 女たちはイエスのみ言葉を思い出した。

24:9 そして、墓から戻って、十一弟子とそのほかの人たち全部に、一部始

終を報告した。

24:10 この女たちは、マグダラのマリヤとヨハンナとヤコブの母マリヤとであった。彼女たちと一緒にいたほかの女たちも、このことを使徒たちに話した。

24:11 ところが使徒たちにはこの話はたわごとと思われたので、彼らは女たちを信用しなかった。

●「主イエス・キリストの復活」に関するパウロの理解と見解

※第 I コリント15章12節～22節「福音とは？」(新改訳旧版・新約p.311上段)

15:12 ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているのなら、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がいるのですか。

15:13 もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかったでしょう。

15:14 そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。

15:15 それどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜなら、もしもかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです。

15:16 もし、死者がよみがえらないのなら、キリストもよみがえらなかったでしょう。

15:17 そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。

15:18 そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのです。

15:19 もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。

15:20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

15:21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。

15:22 すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。

◎先週のメッセージの概要【神の訪れの時】

《主イエス様の、エルサレム入場の場面は、すべての福音書に書き記されています。統合してまとめて見ますと、イエス様と弟子たち一行は、ベタニヤのマルタ姉妹とラザロの家を出た後、ペテパゲまでやって来て、そこにいた子ロバを調達したことになります。それからイエス様を乗せた子ロバが通る道の前に、ユダヤの人々が、上着を敷いたのです。これは最高の敬意を表わす行為です。そして人々は、歓喜に溢れて叫びます。

「ダビデの子に祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。」この五日後には、同じ人々が今度は「十字架につける。」と叫ぶのです。人間の心理とは、いかに周りに影響されやすいものかが良くわかります。

さて、子ロバに乗った主イエス様はエルサレムに近づいてきました。ルカは、その時、イエス様が涙を流され、語られたことを書き記しています。『「もし平和に向かう道を、この日おまえも知っていたら。しかし今、それはおまえの目から隠されている。やがて敵はおまえに対して壘を築き、包囲し、四方から攻め寄せ、そしておまえと、中におまえの子どもたちを地にたたきつける。彼らは一つの石も、他の石の上に積まれたまま残してはおかない。それは、神の訪れの時を、知らなかったからだ。』と。

この時イエス様は、明確に「神の訪れ」を宣言されました。これは、ご自身がヤーヴェなる神様であることを明らかにされたのです。この預言が成就するのは、この時点から40年後の紀元70年のことです。イエス様は、エルサレム市内に入りますと、弟子たちにさらに詳しい預言を与えます。

『「エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、その滅亡が近づいたことを悟りなさい。その時、ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。都の中にいる人たちはそこから出て行きなさい。都に入ってははいけません。』と。

この言葉があったからこそ、エルサレム滅亡の直前に、都の中のキリスト者は、全員がヤコブの指導の下に、脱出することが出来たのです。》

◎お知らせ

※主日礼拝は、4月19日(日)・26日および5月3日・10日は、各家庭にて行ないます。また聖書の学びと祈り会も、4月15日(水)・22日・29日および5月6日・13日まで、各家庭にて行ないます。その後は状況しだいです。